

## THE YMCA

## 日本YMCA基本原則

私たち日本のYMCAは、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ世界のYMCAとのつながりのなかで、次の使命を担います。

私たちは、すべての人びとが生涯をとおして全人的に成長することを願い、すべてのいのちをかけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし痛みを分かちあう社会をめざします。

私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます。

2016年4月1日発行（毎月1日発行）  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円（外税）（送料62円）  
発行/公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区本塩町7  
TEL: 03-5367-6640 FAX: 03-5367-6641  
URL: <http://www.ymcajapan.org/>  
発行人/島田 茂 編集人/山根 一般  
印刷/あかつき印刷株式会社

ようこそ、  
若きリーダーたち

三菱商事株式会社 代表取締役 常務執行役員  
元東京YMCA山手ランチリーダー  
廣田 康人



今年も4月がやってきました。皆さん、新たな希望を持って新しい歩みを始められたことと思います。3月までと同じ職場や同じ学校にいても4月のもつ新鮮さは格別です。

そしてYMCAにもリーダーの新たな仲間が加わったことと思います。ようこそ、リーダーの世界へ。

私は、小学生のころから故郷の名古屋でYMCAの活動に参加していましたが、キャンプで一緒だったリーダーがとても素敵で、大学入学と同時に憧れのYMCAリーダーになり、大学4年間のほとんどをYMCAと共に過ごしました。就職試験もキャンプから直行、という始末で、真っ黒な顔を見た面接官から「一体君はどこから来たんだね」と聞かれたのを覚えています。

青春時代というのは常にそうなのかも知れませんが、今、東京YMCAでのリーダー時代を思い返すと恥ずかしいことばかりで、立派に活動ができたのはなほだ自信がありません。血気だけが盛んでいたので、いろいろ暴れ回っていただけのような気がします。

それでも、一緒に汗を流したリーダー仲間、共に歌ったキャンプソング、野尻や山中湖といったキャンプ場の日々変わる自然、ディレクターとの熱い交わり、そしてかわいくも憎たらしいメンバー、そう

いったすべての関わりから自分自身が育てられたように思います。また、このような思い出を持ってたことが、今の私の大切な財産となっています。

リーダー時代、リーダーシップやグループワークについてよく議論したものです。上から目線で指導する、ということではなく、共感し、お互いに高め合っていける関係を作っていくにはどうしたらよいかをみんな真剣に考えていました。一人ひとりが持つ個性を生かしながら、「育つ」「成長する」とはどういうことかについて、未熟ながら真面目に取り組んでいたように思います。

リーダーとしての活動は、人との関わりが中心です。人と人が関わりを持つことは大きな喜びですが、同時にいろいろ面倒で困難なことも生まれます。若ければなおさら。でも、そんな時はキャンプ場から夜空を見上げたり、キャンプソングを歌ったり、ちょっと涙したりしてみてください。

これからますますIT技術が進み、ダイバーシティも求められる時代にあって、人と人とのつながりは一層貴重なものになるでしょう。YMCAのリーダーに期待されることも大きいと思います。

若きリーダーたち、大いに悩み、議論し、笑い、恋をし、素敵にリーダーになってください。

繰り返します。ようこそ、リーダーの世界へ。

## REPORT

相手と向き合って心を合わせていくこと。  
（仏教・聖典・共感的関係の意）

## YMCA 我がしらべ

アポロ宇宙船11号が人類初の月面着陸に成功した時のこと。無事に帰還したアムストロング船長をはじめとする宇宙飛行士たちは質問攻めにありました。その中の「怖くなかったですか?」との問いに、ある宇宙飛行士は答えました。「私は子どもの時にYMCAのキャンプで夢と希望と冒険を学んだ、だから怖くなかった」。

テレビを見ていた私の父は喜びました。「これはYMCAにとって最高の宣伝だ」。父はYMCAの主事で、英語の教師だったのです。しかしテレビの通訳がYMCAに触れることはありませんでした。

これは1969年の出来事。私はまだ10代でした。

あなたは1969年に生まれていましたか?どこで何をしていましたか?あなたはYMCAの活動で、夢と希望と冒険を与えられましたか?あなたはYMCAの活動で、子どもたちに夢と希望と冒険を与えましたか?

あなたはYMCAの活動が神への祈りで始まったことを知っていますか?

YMCAの歴史は神との出会いに始まり、感

謝の祈りを重ねながら今日も続いています。スタッフからリーダーへ、リーダーから子どもへ……そして多くのボランティアから受け継がれてきた数々の祈りと働きすべてが、神へとつながっているのです。

新約聖書のマタイによる福音書18章1～5節に「天の国でいちばん偉い者」という話があります。

「そのとき、弟子たちがイエスのところに来て、「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」と言った。そこで、イエスは一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせて、言われた。「はっきり言っておく。心を入れ替えて子供のようにならないければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ。わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」

リーダーの皆さん、あなたはYMCAの宝です。輝いています。あなたに抱きついて来る子どもたちは、この世の宝です。リーダーと共に過ごすことで、彼らはもっと輝くでしょう。そしてサポートする大人たちは、ほほえみながら、皆と一緒に元気に育っていくことを感謝して祈ります。神様は今日も、子どもたちもリーダーも共に関わる人びとも、そしてあなたもお守りくださるのです。アーメン



Vol.15

### We All Belong to YMCA

YMCAの活動に参画するユースからの発信

◆とちぎYMCA  
 高校生ボランティアグループ「てのひら」  
 ◆内容：週1回のリーダー会を行い、特別養護老人ホーム「マイホームきよはら」の清掃ボランティア、アメリカの高校生が1カ月間滞在するプログラムの企画、野外教育プログラムへの参加など、さまざまな活動を行う

これまでボランティアに参加したことがなかった私は、ボランティアができていいなと思っていてたところ、友達に誘われて「てのひら」の活動に参加するようになりまし



左が袖山さん

初に出席したリーダー会での自己紹介で、「春休みの思い出は」という質問に対し、ほとんどのリーダーは春休みの野外プログラムにリーダーとして参加したことや、これからの活動についての目標などを書いており、私のモチベーションの低いにショックを受けました。同時に、そんなリーダーたちがとてもうやましくて、追いつきたいと思って努力をしてみました。

最初のうちは、野外プログラムで子どもたちと一緒に遊ぶことしかできませんでしたが、しかし、努力して活動を重ねていくと、子どもたちをどう楽しませるか、その中でどのような関係性ができているのかを理解するようになり、この経験からリーダーとしてのやりがいを得ることができました。グループ名の「てのひら」は、「私たちにできることから一つひとつ」という意味です。この言葉のように、できることの一つひとつを、活動に生かしていきたいと思っています。

袖山 千歳 (でっさんリーダー)

# リーダーから「君」に、バトンをつなぐ

## YMCAを支える、出会いの 릴레이

YMCAは、一人ひとりのいのちを大切に育む取り組みを行っています。その働きを大きく担うのが、ボランティアリーダー。子どもたちと一緒に自然を感じたり、心の痛みや喜びを味わったり、また異なる言語や文化的背景を持つ人たちと出会ったり……さまざまな経験を通して、リーダー自身も成長しています。

今回は、現役リーダーとOB・OGからのメッセージをお届けします。この思いはバトンのように次々と引き継がれ、今も、これからも、YMCAリーダーの中に生き続けます。

今、頑張っているリーダーたち

### 三次元になった私の世界

川口 志穂 富山YMCA ボランティア



「富山YMCAチャリティークリスマス」で劇に出演したメンバー。前列中央が川口さん

練習のための集合時間は守られたことがありません。私も心配りで、決められたスケジュールを忠実に実行したスケジュールは、一瞬のうちに崩れます。しかし、その計画を崩していくのが、意外といふ働きをするのです。私はそんな彼らと、これからは一緒に成長していきたいです。負けません。これだけ計画を崩されたとしても。

私がYMCAに通い始めたのは6年前。初めはフリースクールの生徒としてでした。あのころの私と今の私は別人です。以前の私は「白か黒かの価値判断しかできません。その上頑固でした。適度に主張し適度に妥協する」のが、私にとって最も難しいことでした。しかし、YMCAのフリースクールで出会った人ひとみな、かなり個性的で、良い・悪いのみで測ることができず、毎日私は圧倒されています。でも私を含めて、そんなみんなを受け入れてくれる場所がYMCAでした。苦手だったはずの空間が、いつの間にか心地のいい場所へと変わっていき、今でも変わっていません。この経験が、私にとっての三次元になりました。私は今、YMCAでボランティアをする立場になりました。フリースクールの子どもたちに得意な習字を教えたり、冬にはフリースクールに通う子どもたちとクリスマス劇を上演したりしています。子どもたちは誰一人私の思い通りになりません。アフタースクールでは子どもたちが指示に従ってくれず、学級崩壊まっしぐら。劇では、皆それぞれ向き合っている。練習のための集合時間は守られたことがありません。私も心配りで、決められたスケジュールを忠実に実行したスケジュールは、一瞬のうちに崩れます。しかし、その計画を崩していくのが、意外といふ働きをするのです。私はそんな彼らと、これからは一緒に成長していきたいです。負けません。これだけ計画を崩されたとしても。

### ここは僕の居場所

野村 光 東京YMCA リーダー



野村さんの背中を見ながら、一緒に滑る子どもたち

僕は4年間、西宮YMCA「ミニティーセンター」の「Smile(スマイル)」という活動にリーダーとして参加してきました。「Smile」は、発達障がいを抱えた子どもたちのプログラムで、小学1年生から高校3年生を対象としています。リーダーとして関わるとは、「Smile」に参加する子どもたち、どれだけの純粋で素敵なんだろう」と感じることもよくありました。野外活動をしていて、風が吹いて草花が揺れるのを見て「キラキラしてるー」と表現する豊かな感受性は、僕に新しいモノの見方を教えてくれました。ただそれと同時に子どもたちの抱える困難に対して、自分に何ができるだろうかと考えさせられました。

そんな僕は大学3年生の時、「自分のような未熟な人間はSmileの子たちには何もしてやれないのではないか」と考えるうちになり、半年間活動に行くことができなくなりました。Smileの子たちや、リーダーが好きだったままにないからこそ自分の至らなさが許せなかったのです。しかし、尊敬する先輩リーダーに誘われて一緒に食事したり子どもたちからも来てほしいというメッセージをもらったりしているうちに、「こんな自分を認めてくれる場所はないか」と考え、また参加してみようと思えるようになった。先日の活動前夜は、フックフックと寝れなくなるほど不安は消えていきました。そんな僕の居場所をこれから大切にしたいと思っています。

### ここで蒔かれた種を...

市川 愛 YMCAせとうち リーダーOP/ YMCAスタッフ



リーダー時代、サッカークラスの子たちと

私は大学生のころ、岡山YMCA(現YMCAせとうち)で4年間、ボランティアリーダーとして活動していました。野外活動やキャンプ、サッカークラスなど、さまざまな活動に参加し、同じリーダー仲間やスタッフの皆さん、何よりも子どもたちの笑顔に支えられ、楽しさや悲しさ、苦しさなど、たくさんの体験をさせていただきました。大学時代にYMCAと出会い、リーダーになり、泣いたり笑ったりしながら経験して得られたものは、私の宝物です。私は当時、保育士になりたいという夢を持って子どもたちと関わっており、卒業後、念願の保育士になることができました。しかしそこで、私の中の「YMCA」が大きく私を突き動かすことになりました。YMCAで子どもや人への愛を感じてきた私にとって、いつしかYMCAの愛ある保育が、自分の保育観になっていたことに気付いたのです。さまざまなことに躓き、苦しみの中にある時、私を支えてくれたのもYMCAだったように思います。そして私は、スタッフとしてYMCAに戻ってきました。現在は幼児保育や学童保育に関わり、日々子どもたちに成長させてもらっています。

昨年、YMCAせとうちはリーダーOP会を発足しました。設立式に出席したリーダーOPたちからは、YMCAについて「今までの人生で一番熱く、一つのことに取り組めた時間だった」「今の自分があるのはYMCAがあったから」「人は協力できる、信頼できる、ということが私の中の柱になった」「社会に出て生きていくためのエネルギーを作った時間」……そして、YMCAはリーダーにとって「帰る場所」である、という言葉ももらいました。私だけでなく、卒業したリーダーが同じような思いを持ち、再度YMCAに集えたことに大きな喜びを感じています。

ボランティアリーダーの皆さん、自分らしく、楽しんで活動してください。そして、ここで蒔かれた種を、安心して、さまざまな場所で咲かせてください。YMCAはいつでもあなたの居場所なのです。  
 ※リーダーOP:YMCAせとうちでは、リーダー出身者を「リーダーOP(Old Person)」という語で表しています。



スタッフとして、YMCAせとうちに帰ってきました!



ワークキャンプでは日本とフィリピンのキャンパーがお祭りや企画、たくさん子どもたちが集まった

### 何が何でもいろいろ やってみる

高橋 正樹 埼玉YMCA リーダーOB/ 教員

私がYMCAと出会ったのは小学生のころ。「発達障がい」を持つ妹がきっかけでした。YMCAのソーシャルトレーニングクラスやキャンプに参加するようになってから、妹に笑顔や自信に満ちた表情が増えたことをよく覚えています。

大学に進学して2年生になった時のこと。カリキュラムの中にYMCAでの活動がありました。私は即座に申し込み、リーダーとしての活動が始まりました。最初は「発達障がい」のグループが中心でしたが、さまざまな人が集うYMCAにハマり、数多くの活動に参加しました。最も思い出深いのは、2度参加したフィリピンワークキャンプです。このキャンプで私は、人と触れ合い、笑い合い、励まし合い、そしてフィリピンという国を知ることができました。

2度目のワークキャンプで、あるおじいさんと出会いました。その人は、第二次世界大戦で日本がフィリピンに侵襲し、国民の多くが命を落としたことを知っている人でした。最初に会った時は「日本人の顔も見たくない」といった反応でしたが、私たちの様子を見ていたのが、徐々に表情が柔らかくなり、最終日には見送りに来てくれました。この出会いは私たちだけではなく、おじいさんにとっても何かが残ったのではないかなと思える貴重なものでした。

私はYMCAでの活動を通して「広い視野で見つめること」「何が何でもいろいろやってみる」を学び、今も実践しています。埼玉県内の特別支援学校の教員となってからも時折YMCAの活動に参加していますが、自分自身がここで体験することはもちろん、現役リーダーの子どもへの関わり方を見ることも、とても勉強になります。リーダーの皆さん、これからも、たくさんの方にチャレンジしてください。何よりも実践と経験です。無駄になることは一つありません。



教員となった高橋さん、今もリーダーから学ぶことは多い

### 意識せずとも身に付く力

家田 奈津美 神戸YMCA リーダーOG/ キャンプアテンダント

私は、大学4年間を西宮YMCAのボランティアリーダーとして過ごしました。活動は多岐にわたり、子どもたちだけでなく、同じ大学生リーダーやYMCAスタッフ、また子どもたちの保護者とも関わってきました。

私は現在、キャンプアテンダントとなり2年がたちました。この仕事は、老若男女、地域、さらには国籍を問わず、毎日さまざまな方とお会いする機会があります。また、目的地に向かう「チーム」は、多数の乗務員の中から編成されるため、毎回「初めまして」から始まることほとんどです。しかし、このような状況の中で、聴くことなくチームの一員として力を発揮することができるのも、YMCAリーダーとしてスタッフや保護者の方たちと、一人の大人として話をする機会に恵まれていたからだだと思います。YMCAの最も素晴らしい点は、「意識せずとも身に付く」というところだと思います。自然の中でのキャンプを通して、非日常の環境に適応する能力に、YMCAリーダーは長けていると

思います。私も限られた環境の中で、いかに最高の楽しみを見いだすか、いかに苦手を克服して取り組むか、といったことを身を持って学ぶことができました。意識せずに身に付いた「どんなことも簡単に諦めないで、まずはやってみよう!」という精神は、社会で生き抜くサバイバル力となっています。

ユースの皆さんには、今、つらいこともたくさんあるかと思いますが、YMCAという場でリーダーをしていて良かったと気付く日が必ず来ます。どうか、その場で共にいる仲間たちと最大限の楽しみを生み出してください。応援しています!



「冬は寒いから、この厚いコートは、キャンプで活躍するときに活躍する」

## 社会に飛び出したリーダーたち



**NEWS**  
各地の動きをご紹介します。

**●熊本バンド140周年記念早天祈祷会を開催**  
—熊本YMCA

「札幌バンド」「横浜バンド」と並び、日本におけるキリスト教プロテスタントの源流となった「熊本バンド」は、今年140周年を迎えました。

「熊本バンド」は、熊本洋学校に教師として招聘されたL.L.ジェーンズに導かれてキリスト教に入信した青年たちのうち、35人が花岡山山頂にて「奉教趣意書」に署名、一致協力して信仰を守り、キリスト教を日本中に広めていこうと誓ったことに始まります。キリスト教が受け入れられなかった当時、この行動は大問題となって熊本洋学校は閉鎖され、多くの青年たちは開校後間もない同志社英学校(後の同志社大学)に転入しました。卒業後彼らは、牧師、教職、官公吏、政治家となって活躍し、小崎弘道(東京YMCA初代会長)、原田助(神戸YMCA初代会長)などは日本のYMCAの誕生に関わり、各方面でキリスト教の広がりや、日本の政治、経済、文化の近代化に大きく貢献しました。

この「熊本バンド」結盟140周年を記念し、1月30日の朝6時半より、花岡山山頂で早天祈祷会を行い、キリスト教会、キリスト教系の高校、熊本YMCAの関係者だけでなく、同志社創立140周年を祝して開催された「同志社フェアin熊本」に参加された方々など、約400人が記念碑を前に祈りを捧げました。

ここでは、1876年に青年たちが署名した「奉教趣意書」の原文と口語訳を熊本大学YMCA花陵会のメンバーと九州学院高校の生徒が、それぞれ朗読しました。続く同志社大学学長の村田晃嗣さんによる「寛容と忍耐」をテーマとした奨励では、「人間の歴史は、寛容と不寛容の歴史であり、その戦いに寛容はしばしば敗れてきた」、しかし「このような時代だからこそ、異なる意見に耳を傾け、自分に過ちはないのかと問いつつ、忍耐を持って歩み続けることが求められる」というメッセージが語られました。



早朝の花岡山山頂で、参加者は炎を囲んで祈りを合わせました

熊本バンド140周年記念の祈祷会は、現代社会の中で、明治の青年たちの志をいかに受け継ぎ、熱い思いを持って行動すべきかについて考え、祈る時となりました。

熊本YMCA 神保 勝己

**●第16回中日本地区YMCAグローバル教育**  
**研修会を開催** —中日本地区YMCA

大阪、神戸、和歌山、富山、京都の各YMCAから27人が集い、2月13~14日に六甲山YMCAにてグローバル教育研修会が開催されました。世界や地域を取り巻く課題を捉え、「ともに生きる社会」を創り出すため、私たちに何ができるのか……。YMCAとして、平和を創る人の育成を目的とするこのプログラムも今年で16回目。今回は大阪女学院国際・英語学部教授の奥本京子先生(お京さん)をファシリテーターとしてお迎えし、「積極的に平和を創り出すこと」をテーマに学びました。

お京さんのファシリテートするプログラムはとてもユニークなものでした。体を使って「戦争」を表現する人間彫刻ワークや、さまざまな「パワー、力」を無言劇で表現するなど、言葉はもちろん、モノやヒトを使って自分の考えや感情を表現する機会が多く設けられました。私たちは表現することの難しさを痛感しながらも、多様な背景を持つ参加者同士の対話を通じて、「パワー、力」とは何か、平和をどう創っていくかを考えました。

また、コンフリクト(紛争)へのアプローチについても学びました。コンフリクトを解決する上で、一方だけの勝利や当事者同士のwin-winという妥協を越える、より創造的で互いに共感できる解決方法を探るといふものです。ワークでは、私たちの身近なコンフリクトを取り上げ、それをいかにより良い方向へ導けるか、皆がピースワーカーとなって向き合いました。

コンフリクトは国家レベルの紛争だけでなく、日常に起こり得る人間関係の衝突や自分自身の中の葛藤など、身近に多く存在します。私たちはそれに巻き込まれ、いつ



一人ひとりワークを通して感じたことを、全体で共有した

当事者になってもおかしくはありません。そんなとき自分が当事者として、ピースワーカーとして、相手の思いを多角的に捉え、積極的に理解しようと努める姿勢を持つことが大事だと学びました。平和を創るのに正解はありません。常に、平和を創り出すにはどうしたらよいかを、考え続けていこうと思います。

実行委員・京都YMCA 関 つぐみ

**アジア・世界のYMCAから**

**◆アフリカン・ルネッサンス専門学校による技能教育**

—アフリカYMCA同盟

アフリカYMCA同盟は、ケニアの3つの地域でアフリカン・ルネッサンス大学に付属する専門学校を創設しました。この学校は、現在ケニアで大きな社会問題となっている技能労働者不足と、ユースの失業問題の解決を目指しています。具体的には、成績不良や中途退学などの理由で大学に入学できなかったユースを対象に職業訓練を実施。ケニア商業銀行の支援により今後2年間、毎年5,000人のユースに建設、機械工学や美容などの技能の習得と向上の機会を提供する予定です。第2段階としては、能力あるユースの起業を資金面も含めて支援し、さらなる雇用機会を生み出すことを目指します。

**◆発展するカンボジアYMCA**

—アジア・太平洋YMCA同盟

2015年11月11~12日、カンボジアYMCA運動を支援する国々が構成するPSG(パートナーサポートグループ)会議がプノンペンで開催されました。ここではカンボジアYMCAが取り組む、ユース育成や子どもの教育のプログラム、貧困高齢者



PSG会議には、日本を含むアジア・太平洋地域のYMCA代表者が集まった

支援の報告がなされました。また、2015年の秋からは、貧困層の子どもや女性を対象にしたチャイルドケア・プログラムが、横浜YMCAの支援でスタートしたという報告もありました。

この他にも、ストリートチルドレン・プロジェクトの卒業生を対象にしたパソコンの技術指導や、ボランティア活動を通して学ぶユース・インスティテュート(若者の学校)などの新しいプログラムも生まれています。

**◆糖尿病予防は有望な成長産業となる**

—YMCAの新しい取り組みの可能性— —アメリカYMCA同盟

アメリカ疾病対策センター(CDC)の報告に、8,600万人のアメリカ人成人が糖尿病予備軍であり、その内3分の1が5年以内に糖尿病を発症するという指摘がありました。アメリカでは糖尿病への意識が低いことから、すべての保険会社が、被保険者の中で血糖値が上昇している人びとの生活改善プログラム費用を全額負担することになりました。YMCAも、このようなプログラムを何百万もの人びとに届けるためのスケールメリットと運営方法を備えており、今後の取り組みが期待されます。

●上記トピックの詳細(隔月PDF)は、日本YMCA同盟HPの「世界のYMCA」のページよりご覧いただけます(一部、英語のみ)。 <http://www.ymcajapan.org/world/index.html>

**●ピンクシャツデーの取り組み** —全国YMCA

2月の第4水曜日の24日、全国のYMCAでは「ピンクシャツデー」に心を重ね合わせて過ごしました。この運動の始まりは、2007年のカナダの学校においてです。ある日、ピンク色のシャツを着て登校したことでいじめられている少年の姿を目にした2人の学生が、周りに呼び掛け、翌日、多くの生徒がピンク色のシャツを着て登校。これをきっかけに学校から自然といじめがなくなったというエピソードが、インターネットを通じて世界中に広まりました。



京都YMCAでは缶バッジを作成してアピール

YMCAは社会全体がいじめに対して高い意識を持ち、また、いじめの「傍観者」にならないことが、子どもを救うことになると考え「ピンクシャツデー」に賛同しています。

横浜YMCAでは昨年に続き、今年もすべての拠点でピンク色のシャツや小物を身に付けて過ごしました。また、自分の率直な心の声を言葉にし、互いに聴くことを尊重できる成長を願い、小学生を対象に「気持ちのワークショップ」を開催しました。「号泣は鳴りました。今も苦しみ、いじめに遭う子どもたちに寄り添う初めの第一歩がピンクシャツデーです。まず大人が子どもを守る姿勢、いじめ反対の姿勢を示すこと。自分のできることから、いじめや差別防止へこれからも取り組んでいきます」と活動の提唱者である田口努総主事は語ります。

大阪YMCAでは企業や団体からの賛同を集め、「ピンクシャツデー」の輪を広げました。協力企業であるセレッソ大阪(大阪サッカークラブ株式会社)の選手たちからは「いじめ撲滅」のために「イジメをなくすには、まず自分が行動しよう!」、「まわりを見てみよう。気づいてあげよう。見ているだけなら、それもイジメだよ」といったメッセージが寄せられました。盛岡YMCAの学童保育(ぶらいむ・たいむ向中野校)での活動の様子は、岩手めんこいテレビにて放送されるなど、各地でニュースとなりました。

2月24日、全国のYMCAがピンク色に染まり「いじめのない社会」に思いを寄せ、SNSやホームページを通じて連帯を示す喜びを感じる一日となりました。

日本YMCA同盟 横山 由利亜